

寄贈図書リスト

- 天文マニア養成マニュアル, 福江 純 編, B5判, 160
頁, 2,400円+税, 恒星社厚生閣
- 活きている銀河たち, 富田晃彦 著, A5判, 180頁,
3,300円+税, 恒星社厚生閣
- ニュートリノ論争はいかにして解決したか, 桜井
邦朋, 四六判, 260頁, 2,800円+税, 講談社

- ピーターソン活動銀河核, Bradley M. Peterson 著
和田桂一・粟木久光・亀野誠二・谷口義明・寺島
雄一・長尾 透 共訳, A5判, 288頁, 6,000円+
税, 丸善株式会社
- 小惑星探査機「はやぶさ」宇宙の旅, 渡辺勝巳 監修,
佐藤真澄 著, 四六判, 180頁, 1,400円+税, 汐文
社

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切, 翌月に発行の「天文月報」に掲載致
します。校正をお願いしておりますので, 締切日よりなるべく早めにお
申し込みください。

e-mail で jimu@geppou.asj.or.jp 宛。

なお, 原稿も必ず Fax で 0422-31-5487 までお送りください。

人事公募

標準書式: なるべく, 以下の項目に従ってご投稿くだ
さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員 (ポスト・人数など), 2. (1) 所属部門・
所属講座, (2) 勤務地, 3. 専門分野, 4. 職務内容・担
当科目, 5. (1) 着任時期, (2) 任期, 6. 応募資格, 7.
提出書類, 8. 応募締切・受付期間, 9. (1) 提出先,
(2) 問合せ先, 10. 応募上の注意, 11. その他 (待遇な
ど)

筑波大学物理学専攻研究員

1. 研究員若干名
2. (1) 数理物質科学研究科物理学専攻・宇宙観測研
究室
(2) 茨城県つくば市
3. 電波天文学
4. 当該研究室では国土地理院つくば 32 m アンテナ
(含 VLBI), 南極ドームふじ基地におけるサブミ
リ・テラヘルツ望遠鏡, チリの ALMA 等を用い
た観測による銀河・銀河系・星形成領域・遠方宇
宙等の研究を推進・計画している。これらの研究
に参加し, 観測や技術開発で成果を上げられる若
手研究者を求める。
5. (1) 2011年4月1日
(2) 3年
6. 着任時に博士の学位を有する者
7. (1) 履歴書, (2) 論文リスト (査読論文とそれ以
外を区別して記述), (3) これまでの研究の概要,
(4) 今後の研究計画と抱負

8. 2010年12月22日(水)必着
9. (1) 〒305-8571 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学数理物質科学研究科物理学専攻
中井直正
(2) 同上
電話: 029-853-4281
e-mail: nakai@physics.px.tsukuba.ac.jp
10. 封筒に「宇宙観測分野研究員応募書類在中」と朱
記し郵送。
11. 当該研究室の詳細は以下のウェブで参照可能。
[http://www.px.tsukuba.ac.jp/home/astro/nakai/
www0/index.html](http://www.px.tsukuba.ac.jp/home/astro/nakai/www0/index.html)

研究助成**国際学会開催支援の応募方法の変更のお知らせ**

財団法人宇宙科学振興会では助成事業の一環として
宇宙科学関連の国際学会開催の支援をしております
が, 平成23年度より応募方法を一部変更します。そ
の骨子は応募締め切りを年2回に限定することです。
平成23年度に関しては,

- (1) 平成23年4月～平成23年9月開催の国際会議
の応募締め切りは平成23年1月15日。
- (2) 平成23年10月～平成24年3月開催の国際会
議の応募締め切りは平成23年7月15日。

となります。以降毎年1月15日, 7月15日が応募締
め切りとなります。詳細は当財団のホームページ
(<http://www.spss.or.jp/>) をご覧ください。

〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台 3-1-1

財団法人宇宙科学振興会 事務局
Tel: 042-751-1126 e-mail: admin@spss.or.jp

会務案内

【理事会議事録】

日時: 2010年9月22日(水) 13:00~14:10
場所: 金沢大学角間キャンパス G15会議室
出席理事: 國枝, 柴田, 渡邊, 竹田, 高田, 田代,
田村, 堂谷, 児玉, 本間, 半田, 小川,
藤沢, 藤本(以上14名)
欠席理事: 小嶋(以上1名)

また, 宮下事務長と板由房氏(東北大)が出席した。
議事に先立って議長と署名人の確認がなされた。
議長: 國枝秀世
署名人: 高田唯史, 竹田洋一

報告

I. 報告

I-1. 前回議事録の確認

資料1に基づいて前回(2010年3月26日)の
理事会議事録が報告・確認された。

I-2. 開催中の年会について

本間年会理事より目下開催中の秋季年会について
の進行状況が報告された。全部で599の講演発表
があり, 順調に進んでいる。記者会見は新聞社6
社とTV局3社が来訪し「はやぶさ」を中心に各
社も報道。一方藤本開催地理事より「郵送された
はずのポスターが届かない」というトラブルも1
件報告された。

I-3. 今後の年会について

2011年の春季年会(筑波大, 3/16-19)と秋季年
会(東北大, 9/20-22)の準備状況が本間年会理事
と板氏より報告された。いずれも特に問題なく
着々と進んでいるとのこと。また本間理事より
2012年春の京都での年会はホストは予定通り京
都大学が務めるものの会場は龍谷大になる見込み
であるとの報告があった。

I-4. 担当理事からの近況報告

PASJ(堂谷理事): 今後来年にかけての特集号の
予定(VERA, すばる, すざく)。

事務所で編集担当に携わるパート職員の交代。
天文月報(児玉理事): 投稿者の便宜を図ってマク
ロ(LaTeX版とWord版)を作成した。来年初
めより公開予定。

天文教育(半田理事):

一本年会中の企画
本日夕方の天文教育フォーラム(著作権がテーマ)と土曜日の公開講演会(家氏, 川口氏, 村上氏)についての紹介。

一講師派遣

講師派遣についてはサーバーがあった機関が改
修工事のため長期閉鎖になるため緊急対応策を検
討中。これと並行して従来からのシステム見直
しも継続検討中。

一巡回展

巡回展は告知のwebページを日本天文学会の
サーバーに移動。終了後の展示品は引取先が全
て確定。体験展示物の制作関係者により, 該当
する展示物について日本展示学会で発表され,
資料として予稿集が提出された。

庶務(竹田理事): 賛助会員の勧誘についての報告
(新たに6社が新会員として加入)。今回から年
会受付の場で登録用紙上で行うオプションが廃
止された総会の事前投票については, これまで
の実績をかなり上回る数のはがき(331名)と
委任状(11名)が届いた。

I-5. 新入会員等報告

前回の理事会以降の入退会等による会員の変動
について竹田庶務理事からまとめて報告があった
(資料2)。

I-6. 事務所からの報告

宮下事務長より, 事務所パート職員の退職・採
用の人事案件が報告された(資料3-1)。また資料
3-2に基づき現在作成中の会員名簿の進捗状況が
説明された。10月末か11月初めに刊行・発送の
予定。

I-7. 七夕同時講演会について

柴田副理事長より7月に行われた七夕同時講演
会の報告があった。今回は77ヶ所で行われ, (数
としては前年より若干減ったとはいえ)約四千人
近い多数の参加者で成功を収めた。また同時期に
行われた京都府の小中高を対象にした出前授業は
47校で約千人の参加者があった。

I-8. 日本天文協議会について

渡邊副理事長より, 日本天文学会も参加するこ
とになった日本天文協議会の設立総会(9月9日)
の報告があった。当面は8団体の参加でスタート
し運営委員会は各団体から1名ずつ出された委員
によって構成される。日本天文学会は理事長が団
体代表, 広報担当の副理事長が運営委員となる。

II. 議題

II-1. 百周年記念出版事業編集委員会の解散

國枝理事長より、前回の理事会で慎重を期して最終決断をペンディングにしていた百周年記念出版事業編集委員会の解散の件は、「評議員会で『やはり現代の天文学シリーズ全17巻の刊行という本来のミッションの終わった委員会は一度はしっかり解散すべきだろう』という意見が支持を得たことに鑑み、当初の委員長の意向通り委員会は解散し関連内規も廃止したい」との提案があり、正式に承認された。

II-2. 準会員の年会参加費・講演登録料の取り扱いについて

本間年会理事より、「年会の参加する際の参加費・講演登録料が現在は正会員と準会員で同一に設定されているが、会費が大きく異なることを考えると差をつける（つまり準会員を高くする）ことを考えても良いのではないかと提案があった。今回は資料も準備しておらず十分な議論ができないので、次回の理事会で議題に上げて本格的に審議することになった。それまでに年会理事、会計理事を中心に具体案を十分に検討しておくことが宿題として課せられた。

次回の理事会（新旧の理事メンバーが一堂に会するので参加人数が多くなる）は来年1月22日（土）に行われる予定。

【資料】

資料1. 前回の理事会(2010.3.26)議事録

資料2. 前回以降の入会者・移行者・退会者リスト

資料3-1. 事務所職員の退職と採用について

資料3-2. 会員名簿作成進捗状況とスケジュール

2010年10月20日

議長：國枝秀世 印
 署名人：高田唯史 印
 署名人：竹田洋一 印

【評議員会議事録】

日 時：2010年9月23日（木）

12時30分～13時30分

場 所：金沢大学角間キャンパス G15会議室

出席評議員：家、伊藤、井上、岡村、奥村、海部、
 佐藤、杉山、谷口、筒井、牧島、嶺重、
 観山、望月、山田、劉、渡部（以上17名）

欠席評議員：池内、坂田、須藤（以上3名）

他に國枝理事長、柴田・渡邊副理事長、竹田・高田庶務理事、田代・田村会計理事、本間年会理事、宮下事務長、が出席した。

議事に先立ち、出席者が17名で定足数を満たし、本会が成立することが確認され、議長と署名人が選出された。

議長：嶺重 慎

署名人：岡村定矩、劉 周強

また資料1に基づいて前回（2010年7月3日）の評議員会議事録の確認が行われた。

1. 報告

1-1. 開催中の年会に関する報告

本間年会理事より目下開催中の秋季年会についての進行状況が簡単に報告された。本日の二日目の現時点ですでに八百人に近い登録があり、開催地理事を初めとした金沢大学の皆さんの努力で順調に進んでいる。

記者発表も盛況で数多くの報道機関で取り上げられた。

1-2. 理事会報告

竹田庶務理事より前日行われた理事会で報告・議決された内容が資料2に基づき報告された。2012年の春季年会が京都大学がホストを務めるにもかかわらず予算上の問題で会場は龍谷大になりそうであることに、初めての例なので「こうする以外に手はなかったのか」などの質問も出されて意見の交換があった。

1-3. 若手の会からの報告

筒井評議員より資料3に基づき、若手の会の最近の活動（本年夏の天文天体物理若手夏の学校、天文学会年会旅費補助制度に対する若手の意識調査）が報告された。特に後者のアンケートでは「他の財源が使えるのでどうしても必要というわけではないが、制度があるのだから申請しよう」という学生が少なくないことがわかり、このために一人当たりの補助額が少なくなっていること、真に援助を必要とする学生のみが十分な補助を受けることができるようなシステムを構築することの必要性、が指摘された。これに対して、「真に困っている学生がどの程度いるのかなどのもっと細かく分析したデータがほしい」、「他に財源の当てがあるのに天文学会から重ねて旅費をもらうようなことは決してしてはいけないとの指導を徹底させるべき」、「Tennetを通して天文学会から『他の研究費が使える人は旅費申請は遠慮してほしい』と呼びかけたが、それがどの程度効果があったのか知りたい」、「若手の会総会など他の機会にもこの種の調査を実施してサンプルの数をもっと増やしてはどうか」、などの意見が出された。

この件は更に検討を進めて次回の評議員会でも

改めて報告される予定。

1-4. 日本天文協議会について

渡邊副理事長より、日本天文学会も参加することになった日本天文協議会（日本の天文研究・教育・普及・アマチュア活動を結ぶ全国組織として団体を会員とするものでまずは8団体でスタート）の設立総会（9月9日）に出席した報告があり、会の組織や構成についての説明がなされた。

運営委員には天文学会からは広報担当副理事長がその任に当たる。続いて本会の初代会長を務めることになった海部評議員より、この会はもともとは世界天文年活動に起因するもので、①今後同様の天文普及活動を行う際の連絡機関としての役割、②イベント等を行う際に後援する全国的機関としての役割、を担うものとするべく立ち上げに至った、との設立の趣旨が補足された。

1-5. 学術会議関連報告

海部評議員より学術会議に関する最近の話題が報告された。

(1) 最近完成した大部の報告書「日本の展望—学術会議からの提言2010」とそのフォローアップとして出した勧告について、(2) 大型計画のマスタープランの進展状況と、一部（重力波のLCGTなど）はすでに今年度予算化されて見通しがついたこと、(3) このたび学術会議の会員・連携会員の改選があるので関連学会である日本天文学会にも情報提供や協力をお願いしたいこと、など。

1-6. IAU 関連報告

本年4月より学術会議IAU分科会委員長に就任した岡村評議員より資料4に沿ってIAU関連の話題が報告された。(1) IAU会員数で日本が世界第三位になったこと、(2) 海部氏がPresident-Electに選出されたので次回2012年北京総会でIAU会長に選出される予定であること、(3) IAUの戦略計画「発展途上国のための天文学」について、など。

I-7. 東アジア天文学シンポジウムについて

海部評議員より10月11-14日に上海で東アジア天文学シンポジウム(EAMA)が開催されるが、最終日に東アジアにおける天文学の協力に関するセッションがあるので出席される方は参加したいとの呼びかけがあった。

2. 議題

今回の評議員会では特に議題はなかった。

[次回の評議員会]

次回の評議員会は2011年2月5日(土)の午後に行う予定。

[資料]

資料1. 前回評議員会議事録

資料2. 前日(2010年9月22日)に行われた理事会議事録暫定版

資料3. 天文・天体物理若手の会の最近の活動

資料4. IAU 関連の報告

2010年10月21日

議長: 嶺重 慎 印
署名人: 岡村定矩 印
署名人: 劉 周強 印

【総会議事録】

開催日時: 2010年9月23日(木)

16時00分~17時15分

開催場所: 金沢大学角間キャンパス自然科学大講義棟大講義室 A

出席者の確認の結果、事前投票者と委任状送付者を合わせた総数(会場参加者との重複は除く)は305名、会場参加は176名であった。

(出席者のうちで事前投票をしたものは事前投票の方を無効とした。)したがって有効参加者総数は481名で定足数(正会員総数1755名の5分の1=351名)を満たしていることを確認した。

議長は規約に則り國枝理事長が務めた。次に署名人として千葉柁司氏、比田井昌英氏が選出された。

議事の経過並びに結果:

1. 竹田理事が資料に基づき、2011年度事業計画書案の説明を行った(第1号議案)。
2. 田代理事が資料に基づき、2011年度収支予算書案の説明を行った(第2号議案)。
3. 渡邊副理事長による次期理事長選任経過の説明に続き、竹田理事が資料に基づいて2011-2012年度役員(理事長以下各理事、幹事)候補者の紹介を行った(第3号議案)。
4. 竹田理事が資料に基づき2011-2012年度選挙管理委員候補者の紹介を行った(第4号議案)。
5. 竹田理事より資料に沿って、これまで当然の事とされてきた「役員は非常勤なので報酬は一切支払われない」ということを、文科省の指導に基づき成文化するべく新たな細則を制定することが説明された(第5号議案)。
6. 第1号議案、第2号議案、第3号議案、第4号議案、第5号議案、はいずれも賛成多数で承認された。

各種報告:

1. 竹田理事が資料に基づいて2011-2012年度の各委員会における新委員メンバー(評議員会で承認を受けて確定)の紹介を行った。

2. 竹田理事から、「現代の天文学」17巻の全巻刊行が達成され、この目的のために活動していた創立100周年記念出版事業編集委員会も任務がほぼ終わったので、2010年限りで本委員会は解散して関連内規も廃止される運びとなり、理事会と評議員会で承認されたことが報告された。また岡村委員長から関係者へ謝意が表された。
3. 海部宣男氏より日本学術会議に関する現状の報告があった。提言書「日本の展望—学術会議からの提言2010」とそのフォローアップとして出した勧告、大型将来計画のマスタープランの状況と重力波のLCGTなど一部は今年度予算化されたこと、学術会議会員・連携会員の改選の件、など。またこれに関連して國枝理事長から「現在募集中の『大型プロジェクト推進に関するパブリックコメント』もぜひ多くの人に出してほしい」との呼びかけがあった。
4. 岡村定矩氏よりIAU関連の話題が報告された。我が国がIAU会員数で世界第三位になったこと、海部氏が次期IAU会長に選出される予定であること、IAUの戦略計画「発展途上国のための天文学」の採択、IAUと日本との関わりをもっと深めるべく年会や天文月報で随時紹介に努めること、など。
5. 渡邊副理事長より、このたび新たに発足した日本天文協議会（日本の天文研究・教育・普及・アマチュア活動を結ぶ全国組織として団体を会員とするもの）に日本天文学会も加わったことが報告され、組織や構成についての説明がなされた。

6. 國枝理事長より科学関係の予算が大きく削減されかねない現状に鑑み、日本の科学を守るために、「目先の事のみでなくもっと将来のことも大局的な見に立ってほしい」との趣旨の29学会合同の声明文を出したことが報告された。
7. 半田教育理事より、巡回企画展「ガリレオの天体観測から400年宇宙の謎を解き明かす」は丁度現在金沢市の「いしかわ子ども交流センター」に来ているので、ぜひこの機会に訪ねてほしいとの呼びかけがあった。

2010年10月20日

議長：國枝秀世 印
 署名人：千葉証司 印
 署名人：比田井昌英 印

日本天文学会 2010年秋季年会報告

2010年秋季年会は、9月22日（水）から24日（金）の3日間、金沢大学（石川県・金沢市）にて口頭講演会場8、ポスター会場3を使って開催された。講演件数は口頭(a)講演が362件、ポスター((b)講演+(c)講演)が237件であり、合計で599講演だった。年会参加者は820名であった。開催地理事の藤本龍一氏を始め金沢大学のスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、滞りなく順調に進行した。

座長は次の45名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する（敬称略）。

	9月22日（水）		9月23日（木）		9月24日（金）	
	11:00-13:00	15:00-17:00	09:30-11:30	13:30-15:30	09:30-11:30	13:30-15:30
A	吉川 真 (JAXA/ISAS)	高野秀路 (国立天文台)	田中邦彦 (慶応義塾大)	左近 樹 (東京大)	藤田 裕 (大阪大)	
B	宮田隆志 (東京大)	藤本正行 (北海道大)	亀野誠二 (鹿児島大)	川勝 望 (筑波大)	市来浄興 (名古屋大)	井上開輝 (近畿大)
C	山田 亨 (東北大)	児玉忠恭 (国立天文台)	辻本拓司 (国立天文台)	中西裕之 (鹿児島大)	小宮山裕 (国立天文台)	大藪進喜 (名古屋大)
D	山岡 均 (九州大)	蜂須 泉 (東京大)	寺田幸功 (埼玉大)	工藤哲洋 (国立天文台)	柴田一成 (京成大)	米徳大輔 (金沢大)
E	大向一行 (京成大)	大橋永芳 (ASIAA)	大朝由美子 (埼玉大)	中本泰史 (東京工業大)	住 貴宏 (名古屋大)	
F	富永 望 (甲南大)	川端弘治 (広島大)	北井礼三郎 (京成大)	新田伸也 (筑波技術大)	政田洋平 (神戸大)	関井 隆 (国立天文台)
G	土橋一仁 (東京学芸大)	長田哲也 (京成大)	宮崎 聡 (国立天文台)	久野成夫 (国立天文台)	村岡和幸 (大阪府立大)	須藤広志 (岐阜大)
H	石崎欣尚 (首都大学東京)	中島 大 (大阪大)	水野恒史 (広島大)	和田武彦 (JAXA/ISAS)	泉浦秀行 (国立天文台)	

〈記者会見〉

秋季年会の前日、9月21日(火)14:00から、金沢大学自然科学研究系図書館・南福利施設の会議室にて行われた。本間希樹年会理事より今回の年会に関する紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関9社の出席があった。これらの内容は、9月27日までに確認できたもので、テレビニュース、新聞にて14件の報道があった。

●研究発表

(1) はやぶさ探査機の大気圏再突入の地上観測

記者会見出席者：渡部潤一、大川拓也、佐藤幹哉(国立天文台)、大西浩次(長野高専)

関連する講演番号：L01a, L02a, L03a, L04a

(2) 草食系(?)ブラックホールの発見

—ブラックホール新星 XTE J1752-223 の出現から消失まで—

記者会見出席者：三原建弘(理化学研究所)

関連する講演番号：J28a

(3) 宇宙の一番星が見えてきた

—ハッブル・ウルトラ・ディープ・フィールドで発見された131億光年彼方の銀河は一味違う—

記者会見出席者：谷口義明(愛媛大学)

関連する講演番号：X01a

〈天文教育フォーラム〉

年会初日の22日午後5時から1時間半、天文教育普及研究会との共催による天文教育フォーラムが開催され、約100名が参加した。テーマは「著作権について理解しよう～天文学の知的財産を教育・アウトリーチ現場で存分に活用するために」と題して、3名の講師による講演とパネルディスカッションを行った。

まずは、「天文と著作権」と題して、常磐大学の坂井知志さんに著作権に関する昨今の社会状況についてご紹介いただいた。続いて、「国立天文台の知財流通促進に向けた取組と今後」と題して、国立天文台の永井智哉さんから、国立天文台のスタッフが始めたLLCの活動と、一元化された天文画像情報の提供についてご紹介いただいた。講演の最後に、「天文素材共有システムの紹介」として郡山市ふれあい科学館スペースパークの水谷有宏さんからPAONETから発展した会員制画像共有システムStellar Cellarが紹介された。

引き続き、短時間ながら討論が行われ、法律では教育利用の範囲が社会常識よりも狭く定義されているため、より広く利用して欲しいコンテンツには、自分たちが想定する利用範囲について具体的に書く必要があ

ることが指摘されたほか、権利者団体などが示すガイドラインへの対抗措置として、学会が中心となった別の観点からのガイドラインを作る必要があるのではないかなどの意見が出された。また、NASAのインターネット公開画像は自らのロゴ以外、どんな目的の使用も原則自由であるため、同様の画像公開を国立天文台やJAXAなどで検討して欲しい旨の要望も出された。著作権について今後も知識の收拾と交換に努める必要があることが確認された。(半田利弘・中道晶香)

〈懇親会〉

懇親会は9月23日(木)に金沢大学生協自然研食堂ホールにて開催された。参加者は事前予約208名(一般136名、学生72名)、当日申込49名(一般22名、学生27名)、開催地関係者15名の合計272名が参加した。金沢大学の村上敏夫氏による歓迎の挨拶、國枝理事長からの挨拶と、海部宣男氏による乾杯の音頭ではじまった。石川県の伝統的地酒や「ひやおろし(生酒)」のほか、能登ワイン、加賀梅酒、加賀棒茶、金沢近郊のみで販売している地サイダーなど、地元由来する飲み物を準備した。また、生協食堂部の方々のご協力で、金沢の食材を使った和風料理や治部煮などの伝統料理も用意していただいた。締め括りの挨拶として、次期天文学会理事長の岡村定矩氏と次期年会開催地理事の梅村雅之氏(筑波大学)からのお言葉をいただいた。施設収容の都合上、事前予約無しでの参加希望者をお断りしなければならなかったことは残念だったが、たくさんの参加者から好評のお声をいただき、たいへん活気のある懇親会を開催することができた。

(米徳大輔)

〈保育室〉

保育室は金沢大学自然科学本館2階の207号室を使用した。3家族、子供3人の利用があった。保育者の派遣は「ゆいま～るベビー金沢(株)ケアサポート金沢」に依頼し、年会実行委員会側は保育室担当が対応した。準備にあたり、金沢大学の藤本龍一氏ならびに同大学教員および学生スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。(奥村幸子、岡 朋治)

〈公開講演会〉

研究発表講演の前後の1日を選んで一般市民向けに講演会を毎回開催している。今回は、9月25日(土)13時～16時に北國新聞赤羽ホールにて、「宇宙の謎に挑む 最先端の科学が解き明かす宇宙の姿」というテーマで行われた。晴天の下、約200名に及ぶ熱心な来場者に恵まれた。

半田利弘天文教育担当理事の司会により、國枝秀世理事長の挨拶に続き、まず、川口淳一郎教授（宇宙科学研究所）の講演「はやぶさとイカロス：最先端の宇宙探査技術」が行われた。はやぶさについては計画立案段階からの紹介があり、「高い塔を建てなければ新しい地平線は見えない」など日本の今後に対して経験に裏付けられた重要な提言を含む豊富な内容であった。家正則教授（国立天文台）の講演「すばるで見る宇宙の一番星」では、特殊フィルターを用いた遠方銀河観測やレーザーガイド補償光学、次期大型望遠鏡計画 TMT が紹介され、科学研究と科学技術の進歩の関係などにも及ぶ興味深い内容であった。村上敏夫教授（金沢大学）の講演「ガンマ線バーストって何なんじゃ？」では、ガンマ線バーストの紹介の後、イカロスに搭載されたガンマ線観測装置でその正体に迫る研究について熱く語られた。講演後に設けられた質疑応答の時間には熱心な質問が相次ぎ、来場者の関心の高さが伺えた。

前回に引き続き、アンケートを実施し回答数 141 を得た。数年程度は継続して実施し、今後の宣伝方法やプログラム編成の参考とする考えである。

なお、本企画は、金沢大学、金沢大学附属高等学校、石川県教育委員会、金沢市教育委員会、北國新聞社の後援、石川県高校理化部会の協力で実施された。

（半田利弘）

（年会実行委員長：本間希樹）

☆天文学会からの大切なお知らせ

来年（2011 年）から、年会予稿集の販売価格が変わります。

日本天文学会 会計理事 田代 信、田村元秀

2006 年より 5 年間にわたって、一部 1,000 円で販売しておりました 年会予稿集ですが、発行コスト見直しの結果、2011 年春季年会から 一部 2,000 円に値上げいたします。これは 2005 年までの価格に戻ることになります。

予稿集につきましては、このところ、販売収入が発行コストが上回る状況が続いておりました。そこで、学会の一般会計の赤字幅を圧縮するために 2011 年度予算から価格を見直すことを提案、2010 年度秋季総会で承認されました。会員の皆様には、ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

年会予稿集の予約購入をされている方につきましては、2011 年 1 月の年会費納入のときから、新価格でお願いすることになります。日本天文学会事務所から、「はがき又は e-mail」で 予約購入を継続されるかどうか、個別に問い合わせがまいりますので、ご面倒をおかけしますが、ご回答いただけますようお願い申し上げます。

欧文研究報告 (PASJ) よりお知らせ

欧文研究報告 (PASJ) では、10 月より電子版に対して新たに「E-Open」オプションサービスを開始いたしました。PASJ の電子版は、最新号掲載分を除いて刊行後 2 年以内の論文は学会正会員および購読機関からのアクセスのみ全文閲覧が可能となっております。「E-Open」は、頁数に関わらず 1 編あたり本論文は 8 万円、レター論文では 4 万円の追加費用を著者の方にご負担頂くことにより、アクセス制限を解除し全文を刊行直後からフリーに公開するオプションサービスです。（追加費用については別途消費税を申し受けます。）今後出版する論文だけではなく、既に掲載済みの論文についてもお申込みを受け付けております。ご希望の方は PASJ 編集部 (office@pasj.asj.or.jp) までお問い合わせください。

PASJ 編集長 堂谷忠靖

(社)日本天文学会へ 2010年8月7日～10月15日に入会された方, 移籍された方, 退会された方をお知らせします.

正会員入会 (2名)

中村 翔 東北大・大学院理 (在学) 清兼和紘 東京大・大学院理 (在学)/国立天文台

準会員入会 (6名)

篠田知則 栃木県佐野市在住 中村俊作 コニカミノルタプラネタリウム(株)
金野幸吉 苫小牧高専・理系総合学科 菊池秀幸 横浜市立市場中学・理科
伊泊龍之 沖縄県豊見城市在住 大谷由香理 東京大・大学院理 (在学)

移籍会員 [準→正] (1名)

樋口あや 国立天文台

正会員退会 (2名)

張替誠司 安藤襄一

準会員退会 (2名)

高野宏一郎 平野 章

編集委員会より

2011年表紙デザイン決定

応募作品の中から編集委員会で選考の結果, 佐藤和子さんのデザインを採用させていただくことになりました. 2011年1月号からお楽しみください.

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード (5桁の数字と) **vol98** (5文字) の計 10文字を入力してください. 「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です. ○○○○○は各号共通の数字です.

児玉忠恭(編集長), 浅井 歩, 柏川伸成, 衣笠健三, 鈴木 建, 徂徠和夫, 竹井 洋, 野田寛大, 浜名 崇, 三好 真, 山崎 了, 吉田直紀

平成 22 年 11 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所)/0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2010 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)